

算数科における授業スタイル

段階	学習活動	時	子どもの姿	留意点
しな	問題提示 めあて	5	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の復習を行う。 短時間に問題を書き写す。その際、問題の書き出し場所・四角囲みなどを一目で分かるようにする。 1時間の活動のめあてを端的に表現する。 問題文の上をめあてを記述する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めあて ○○を~しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が疑問を持ったり考えたりしたくなるように、児童の生活に結びついた課題設定や問題提示をする。 教師が問題を書き始めたら、すぐに書き写す習慣をつける。 コースに分ける際、導入の問題は原則同じものとする。ただし、場合によってはコースごとに問題を変えることも可。 前時までの学習内容を復習し、本時で新しく学習するところはどこなのかをはっきりさせる。
か	自力解決	10	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめる。その際、図や絵・式・答えなど、自らの考えを順番に記述する。 	<p>第1思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートなどを手がかりに既習内容をもとに作る習慣をつける。 既習内容を使いこなすために板書・教室掲示を工夫する。 シエマについては、別表の通り学年段階に応じて計画的に指導しておく。 具体物・半具体物の準備。 考えが出ない子どもへの配慮事項。
か	考えを出し合う 課題提示	20	<ul style="list-style-type: none"> 練り合い・共有化の場面を設定する。 算数科特有の語りを活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 図にもどると… 整数に置き換えると… 具体物で示すと… 例外があるからダメ など </div> <ul style="list-style-type: none"> 明らかに違うもの、考え方が似ているものなどを考え、整理していく。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">課題提示</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;">課題 ○○は~か?</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを出し合い、自分の考えがどこに当てはまるかを明確にする（ネームプレート等の活用）。 シエマを使って自分の考えを説明する。 児童の考え方を提示させる際は、黒板に直接書かせる。紙に書いたものを提示、IT機器の活用など、その場に応じて工夫する。 この時点ではいくつかの考えが出てくると予想されるので、それを整理し、2つに絞っていく。 児童どうしの考え方の違いや、既習事項との違いなど、<u>児童の思考のすれから課題が生じる。</u> <p>再思考</p> <ul style="list-style-type: none"> 現時点での自分の考え（立場）を明確にする。 どちらの考えが、はやく・かんたん・せいかく（はかせ）に解けるのかの視点で考えさせる。 <p>※コースによっては、ある程度教師主導で問題解決を進めていく。</p>
か	まとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容をまとめる。その際、以下の4パターンいずれかでまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> ①キーワードの（ ）うめ ②まとめの前半を提示し、後半を考えさせる ③キーワードを提示しまとめを自分で書く ④学習内容を自分なりにとらえて自分で書く </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてや学習課題からつながるまとめをする。 低①~②、中②~③、高③~④の段階でまとめを行い、最終的には6年終了時点で④の段階でできるよう系統的に指導する。 自分で書かせた場合には数人に発表させ、簡単な評価を行う。
か	練習問題	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 5~10分程度の時間を確保する。 早く終わる子どもへの手立てを具体的に示しておく。（さらに問題を出す・ミニ先生など）